



WOOL AND EXTENDED PRODUCER RESPONSIBILITY

ウールと拡大生産者責任

拡大生産者責任とは

拡大生産者責任 (EPR) とは、当初の製品寿命を終えた製品の廃棄と管理の責任をブランドなどの生産者が負う、という環境政策へのアプローチです (図1)。

フランス、スウェーデン、オランダなどの一部の国は、すでに繊維製品に対してEPR制度の適用を義務付けており、欧州連合 (EU) は2025年に加盟国全体への繊維製品EPR制度導入を検討しています。



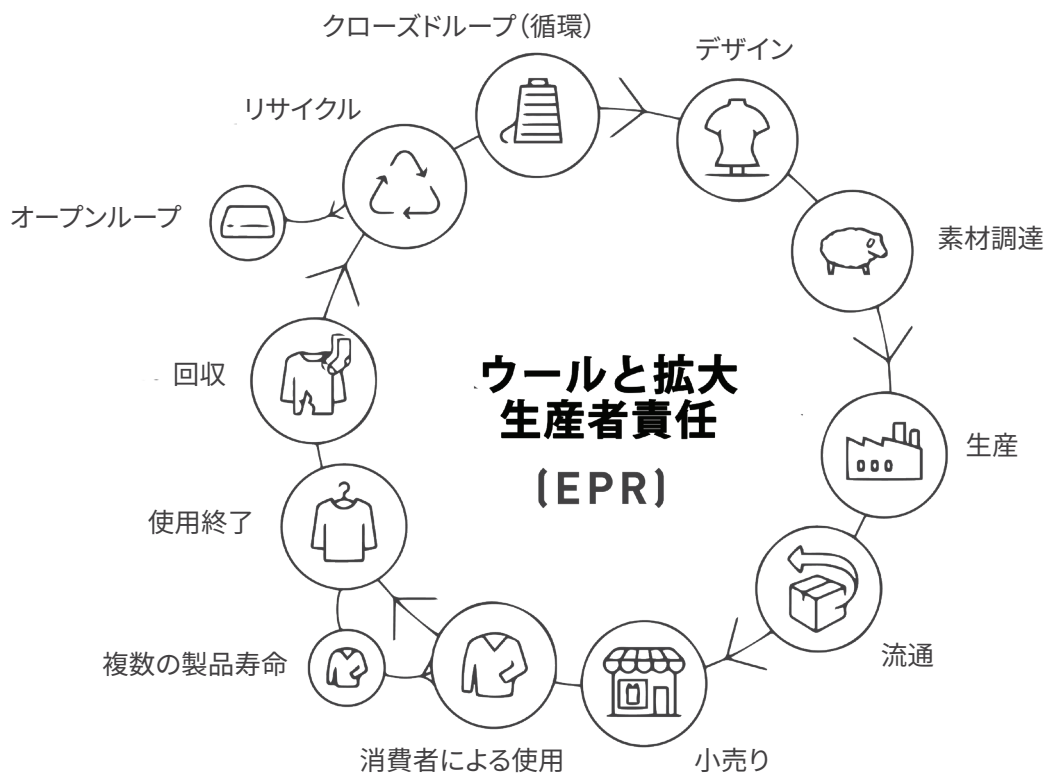
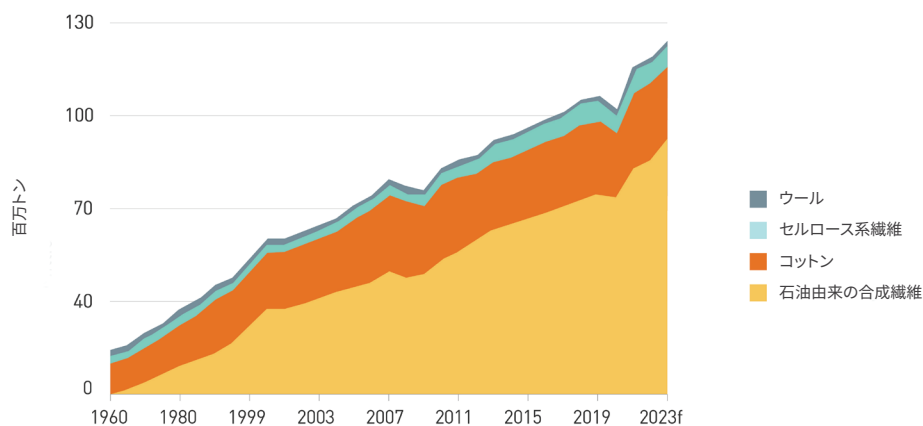


図 1: 拡大生産者責任は、廃棄を最小限に抑えるシステムの構築を目的としています

EPR が導入される理由

EPR は、一般にファストファッションと呼ばれる繊維製品の過剰生産や過剰消費 (図2) に対処するため、高品質で製品寿命が長く、リサイクルも容易な衣料品を生産するようブランド各社に働きかけることを目的としています。

立法機関はEPR制度の導入を通じて、生産者が持続可能かつ循環的な製品設計の原則を採用し、それによって製品の環境フットプリントを削減するよう促しています。製品廃棄の責任は物理的なものである場合もあれば、手数料や税金などの金銭的なものである場合もあります。



世界の主要繊維消費量 (工場消費量 - すべての最終製品)

出典: IWT0、2022年1月

図 2: 主要繊維の消費量

拡大生産者責任とは

フランスにおけるEPR

フランスでは2007年に、繊維製品に対しEPR制度を義務付けました。この制度は以下に基づいて生産者に課税することで、循環的かつ持続可能な繊維製品を企画するようブランド各社に促すものです。

- 使用する原料の量
- リサイクル原料の導入
- 再生可能資源の使用
- 耐久性
- 修復のしやすさ
- 再利用のしやすさ

税率は、製品の大きさ、販売アイテム数、デザインに応じて異なります(環境調整費という罰金システムと報奨金)。この制度の税率は控えめで、環境への影響に基づいた割引や補助金を受けている繊維製品はごくわずかと報告されています。しかし、フランスでは繊維製品にEPR制度が導入されたことで、製品寿命が尽きた(EoL)衣料品の回収率が向上し、埋め立てや焼却処分される繊維廃棄物が減少しました。

スウェーデンにおけるEPR

スウェーデンでは、2022年1月1日から繊維製品にEPR制度が導入され、生産者は2024年1月からその遵守を義務付けられました。繊維製品生産者は繊維廃棄物の回収責任によって、認可を受けた回収事業者を通じて自社のEoL製品を確実に処理するよう求められています。

オランダにおけるEPR

繊維製品に対する拡大生産者責任法(オランダEPR法)が2023年7月1日に発効し、生産者は2025年以降、オランダ市場に流通する繊維製品のリサイクルと再利用について責任を負うことが義務付けられています。オランダEPR法は2030年までの目標として、市場に流通する繊維製品の75%が再利用、或いはリサイクルされること、またそのリサイクル量の33%が再度繊維へリサイクルされることを義務付けています。従ってウールを使用することで、生産者はオランダの繊維市場で事業を行う際の障壁を低くできるかもしれません。



欧州連合(EU)のEPR提言

欧州委員会は2022年に「持続可能な循環型繊維戦略(EU戦略)」を正式に採択しました。この戦略にはEUの廃棄物法を遵守する取り組みの一環として、2025年1月までにEoL繊維製品の分別回収を確立するという加盟国への提案が記載されています。

この戦略の根幹は、繊維製品に関する調和のとれたEPR制度の実施です。このEPR制度には、以下を要点とする繊維製品の「拘束力のある製品別エコデザイン要件」が記載されています。

- 耐久性
- 再利用のしやすさ
- 修復のしやすさ
- 繊維から繊維へのリサイクルしやすさ
- リサイクル繊維含有量の義務付け
- 環境負荷物質の最小化とトラッキング

この制度では非常に高い資源効率の達成を目的として、EoLつまり消費者使用後の繊維製品を比較的価値の高い製品へとリサイクルすることが求められています。

エコデザイン提言はまだ正式に採択されておらず、内容は変更される可能性があります

EPRがウールにもたらすメリット

繊維業界でEPRが義務付けられた場合、ウールには多くのメリットがあります。価格が高く繊維が長いことに加えて、難燃性、防臭性、断熱性といった繊維本来の優れた特性のため、ウールにはリサイクルする価値があるのです。

世界中で循環型経済への急速な移行が進む中、EPR法が進展するにつれて、このようなメリットはブランドにとってウールの価値をさらに高めることとなります（ファクトシート『循環型経済におけるウール』をご覧ください）。EPR税がブランド各社の行動に影響を与えるレベルまで高まれば、バージン・ウールの需要は増加するでしょう。



ウールのリサイクルと再利用の歴史は長い

リサイクル業者にとって財政的・経営的な課題をもたらす合成繊維のリサイクルとは異なり、ウールのリサイクル産業は200年以上前から商業的に高い収益性を維持しています。消費者使用後のウールはリサイクル業者にとって、新しい衣料品の生産（クローズドループ・リサイクル）だけでなく、寝具、断熱材、工業製品（オープンループ・リサイクル）への需要もあります。これほど十分に確立され、商業的にも実行可能なリサイクルのメカニズムを持つ繊維は他にはありません。

再生ウールから高品質の糸が生まれる

再生ウールを80%含む糸からでも、高品質なアパレル生地を作ることができます。原料調達のコストや影響を低減しながら高品質の糸を生産するために、再生ウールは長い間バージン・ウールや他の繊維と混紡されてきました。このような再生ウールの使用は、繊維製品のリサイクル含有量義務化に関するEU提言の意図にも一致しています。

再生ウールは金銭的インセンティブをもたらす

フランスではEPR制度の導入により、クローズドループ・リサイクルで再生された消費者使用後のリサイクル繊維（ウールなど）を使用するブランド各社は、EPR税の50%軽減を受けることができます。商業的に利益を上げているウールのリサイクル産業は、ウール繊維を使用する

メーカーやブランド各社が具体的な利益を得ていることを示す好例です。



リサイクルポリエステル (RPET) の問題

再「リサイクル（された）繊維」と「リサイクル可能な繊維」の違いに注意することが重要です。繊維製品にリサイクルポリエステル（rPET）を使用すると、EUによる精査が入る可能性があります。rPETは主にPETボトルをリサイクルして製造されますが、これは既に完成されているPETボトルのクローズドループ・リサイクルの仕組みからPETボトルを除外する行為です。しかもrPET繊維で作られた衣服は一般的にリサイクルできないため、循環型ではなくリニア型（一方通行型）のリサイクルとなってしまいます。またrPETで作られた衣服は、使用段階でマイクロプラスチックを排出します。これに対してウールは生分解性繊維であり、マイクロプラスチック汚染の原因にならないことが確認されています。ファクトシート『ウールは100%生分解可能』をご覧ください。



参照

Extended producer responsibility (EPR) is an approach to environmental policy in which producers, such as brands, have responsibility for the disposal and management of their products when they reach the end of their primary life.

- OECD (2016), Extended Producer Responsibility: Updates Guidance for Efficient Waste Management, OECD Publishing, Paris, <http://dx.doi.org/10.1787/9789264256385-en>

Figure 2: World consumption of major textile fibres

European Man-made Fibres Association, 2021 <https://www.cirfs.org/statistics/key-statistics/world-production-fibre>

Unlike synthetic fibres which present financial and operational challenges to recyclers, a commercially profitable wool recycling industry has existed for more than 200 years

- European Outdoor group and Greenroom Voice, "Recycled Wool: A Primer for Newcomers & Rediscoverers," 2018.

- S. Jubb, The History of the Shoddy-trade: Its Rise, Progress, and Present Position, Houlston and Wright, 1860.

Clothes made from rPET fibres cannot generally be recycled and so enter a linear model, rather than a circular one.

- https://changingmarkets.org/wp-content/uploads/2021/07/SyntheticsAnonymous_FinalWeb.pdf

Wool, on the other hand, is a biodegradable fibre and has been confirmed to not contribute to microplastic pollution. See Wool is Biodegradable factsheet

- Hodgson A, Leighs SJ, van Koten C. Compostability of wool textiles by soil burial. Textile Research Journal. 2023;93(15-16):3692-3702

- Brown, R. The Microbial Degradation of Wool in the Marine Environment. University of Canterbury, 1994.

This scheme encourages brands to adopt circularity and sustainability principles in textile product design by implementing a tax based on the:

- quantity of material used
- incorporation of recycled material
- use of renewable resources
- durability
- repairability
- possibility of being reused.

- Article L-541-10-3 of the Code de l'Environnement (2007 Environmental Code amendment) https://www.legifrance.gouv.fr/codes/article_lc/LEGIARTI000041599069/2020-02-12

The level of tax varies (eco-modulated – a system of penalties and rewards) depending on the product's size, the number of items sold as well as the design of the product.

- Article L-541-10-3 of the Code de l'Environnement (2007 Environmental Code amendment) https://www.legifrance.gouv.fr/codes/article_lc/LEGIARTI000041599069/2020-02-12

- Eco logic, "Extended Producer Responsibility and Ecomodulation of Fees", 2021. <https://www.ecologic.eu/sites/default/files/publication/2021/50052-Extended-Producer-Responsibility-and-ecomodulation-of-fees-web.pdf>

The tax levels in the scheme are modest, with only a small number of textile items reportedly receiving an eco-based discount or bonus.

- Eco logic, "Extended Producer Responsibility and Ecomodulation of Fees," 2021. <https://www.ecologic.eu/sites/default/files/publication/2021/50052-Extended-Producer-Responsibility-and-ecomodulation-of-fees-web.pdf>

Sweden introduced an EPR scheme for textiles on 1 January 2022, and producers are obligated to comply from January 2024. The responsibility for the collection of textile waste will require textile producers to ensure that their EoL products are dealt with by licensed collection operators.

- Swedish Government, "Extended producer responsibility for textiles – part of the circular economy," Stockholm, 2020. <https://scienceparkboras.se/wp-content/uploads/2021/01/Extendedproducerresponsibilityfortextiles.pdf>

The Extended Producer Responsibility for Textiles Decree (the Dutch EPR Decree) came into effect on 1 July 2023, requiring producers to take responsibility for the recycling and re-use of textile products placed on the Netherlands market from 2025

- Government of the Netherlands, "Decree on rules extended producer responsibility for textiles", 2023 <https://www.government.nl/documents/decrees/2023/04/14/decreet-rules-extended-producer-responsibility-for-textile-products>

The European Commission formally adopted the Strategy for Sustainable and Circular Textiles (EU Strategy) in 2022, which includes a proposal for member states to set up separate collections for EoL textiles by January 2025, as part of a commitment to comply with EU Waste Legislation.

- European Commission, "EU Strategy for Sustainable and Circular Textiles", 2022 https://eur-lex.europa.eu/resource.html?uri=cellar:9d2e47d1-b0f3-11ec-83e1-01aa75ed71a1.0001.02/DOC_1&format=PDF

- 2008 Waste Framework Directive <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=celex%3A32008L0098>

A fundamental part of the proposal is the implementation of a harmonised EPR scheme for textiles. This will involve "binding product specific eco-design requirements" for textile products focused on their:

- durability
- reusability
- repairability
- fibre-to-fibre recyclability
- mandatory recycled fibre content
- minimisation and tracking of substances of concern.

The Eco-design proposal is yet to be formally adopted and its content is subject to change.

- Proposal for establishing a framework for setting ecodesign requirements for sustainable products and repealing Directive 2009/125/EC (EU Sustainable Products Regulations Proposal) <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/?uri=celex%3A52022PC0142>